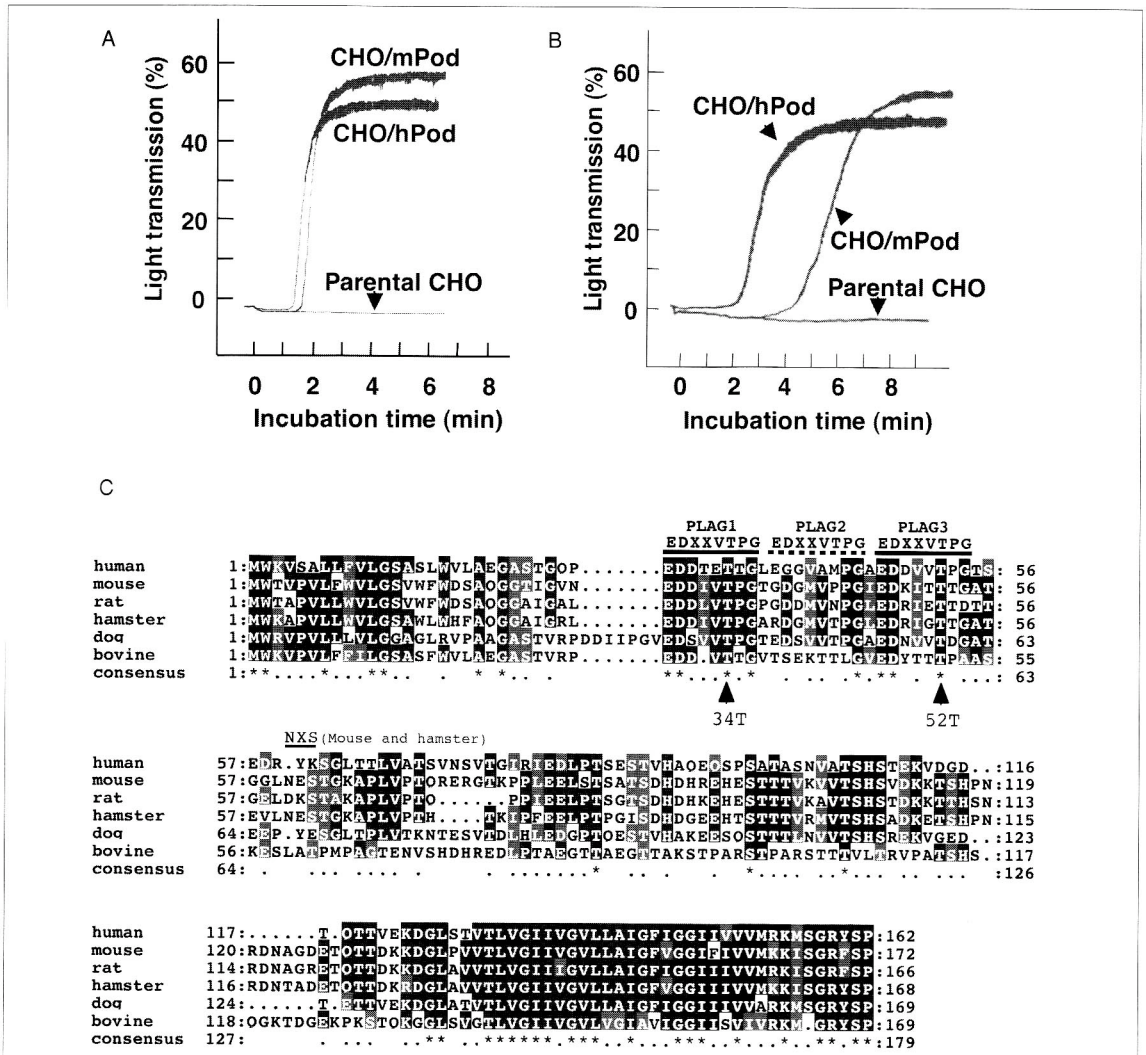
図❸　ポドプラニンによる血小板凝集




A. CHO細胞にマウスポドプラニンやヒトポドプラニンを発現させた細胞（それぞれCHO/mPod，CHO/hPod）は，マウスの血小板凝集を引き起こした。

B. CHO/mPod，CHO/hPodは，ヒトの血小板凝集を引き起こした。

C. ポドプラニンの血小板凝集活性中心（PLAG domain）は，種を越えて保存されている。

れたCLEC-2が報告されていた。GPVIノックアウトマウスの血小板に対しては，ポドプラニンが血小板凝集を引き起こしたことから，GPVIはポドプラニンのレセプターではないことがわかった。

そこで，CLEC-2のFcキメラや膜型発現株を作製し，ポドプラニンとの結合を調べたところ，ポドプラニンとCLEC-2が特異的に結合した。さらに，CLEC-2のFcキメラによってポドプラニンによる血小板凝集が阻害された。GPVIによっては，これらの反応はみられなかった。さらに，ポドプラニンとCLEC-2の反応がPLAG domainを介して起こっていることを確かめるため，PLAG domainのThr52のみに*O*-結合型糖鎖を付加した様々な糖ペプチドを*in vitro*で合成した。その結果，PLAG domainにdisialyl-core1構造を付加した糖ペプチドのみがCLEC-2と高い反応性を示した[9]。